

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
 ☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第599号 2019年9月8日

聖母の被昇天ミサ

8月15日（木）9時30分より、ラファエル梅村昌弘司教の主司式、鈴木真師、谷脇慎太郎師、祖父江優太助祭による共同司式で聖母被昇天ミサがささげられました。現在、教会ホールを聖堂としていますが、ろうそくが灯ると厳かな雰囲気になります。

今年も、ご聖体拝領後に「平和を願う祈り～アシジの聖フランシスコの祈り」を唱えました。



教会ホールでのミサ

ラファエル梅村昌弘司教 説教（要旨）

1950年にピオ12世教皇様によって聖母の被昇天が宣言されました。教会の長い歴史の中で培われてきたこの信仰を公に宣言したということです。私たちの信仰の中心は主の復活にあります。その名称がある教会はどこを探してもなく、聖墳墓教会によって記念されています。ここには、カルワリオ（ゴルゴダ）の丘に立てられた十字架の跡も残されており、聖墳墓教会はイエス様の受難、十字架上の死と復活、これらを救いの一つの出来事として祝う大聖堂だということです。では、マリア様が昇天された場所は

どこでしょうか。残念ながら、聖母の被昇天という名の教会はなく、マリア様が眠りについたことを記念する教会があるだけです。教会の歴史の最初から、マリア様は何らかの形で死を免れていたことが一様に信じられていたので、お亡くなりなを眠り（ドルミティオ）として教会を残したのでしょうか。言ってみれば、そこがマリア様の被昇天の場所だったと思います。

私たちはマリア様を信仰の鑑として仰いでいます。マリア様の「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」（ルカ1・38）、この一言がなければ、私たちはイエス様の救いに与ることはなかったのですから、マリア様の偉大さがよく理解できます。マリア様は、わたしを通してなぜこのようなことが起こるのかと動揺もしましたが、信仰によって神のみ言葉を受け入れたことにより、神のみ業が実現したのです。今日の福音でエリザベトは、「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。」（ルカ1・45）とマリア様に賛辞を贈っています。「この身になりますように（フィアット）」、この言葉は私たち一人ひとりを通して全ての人が救いにつながるようにと私たち自身が告白すべき言葉、そして必ず実現すると信じることは幸いと受け取ることができたら、すばらしいでしょう。マリア様に倣い、私たち一人ひとりが救いの良い器となり、一人でも多くの方が救いに与ることができるように祈ることができればと思います。

（編集部 撮影：土方芳人 文：竹之内弘美）